

事例研究報告

特別支援学校 中学部生徒に対する 自発的に着替えをするための指導

児童・生徒の実態

- イラストのスケジュールカードを使用して着替えを行っている。
- その場で立ち尽くし、自発的な行動が見られない。
- カードに示された内容と異なる行動をすることがある。

教員の願い

- スケジュールカードを見ながら、
自発的に着替えを行ってほしい。

アドバイザーからの助言

- ・ 着替えを1工程終えるごとに、称賛する。
- ・ 更衣室に入り、1工程目の着替えを行う際にスケジュールカードを指さしする。指さしをしながら「着替えをするよ」と言葉かけを行い、カードに注目して着替えの活動が意識できるようにする。

助言を受けての見直し

- スケジュールカードの提示場所を変更する。
- スケジュールカードを所定のカゴに入れた後、「OK、〇〇さん」と称賛する。
- スケジュールカードに、「靴を履く」という手順を追加する。
- 更衣室に入り靴を脱いだ後、着替えの手順が確認できるように、スケジュールカードを指さしする。

記録方法と記録

<記録の方法>

- ・ 着替え時にその場で立ち尽くした総時間を計測
- ・ 着替えの工程ごとの支援の段階を得点化し、その日の合計得点を算出。（支援なし→0点、指さし→1点、言葉かけ+指さし→2点、身体的ガイダンス→3点）
- ・ 着替えの工程（①制服を脱ぐ②スカートを脱ぐ、③ズボンを履く④シャツを入れる（前）⑤シャツを入れる（後）⑥体操服を着る⑦脱いだ服をカゴに入れる⑧靴を履く⑨カゴを持って教室に帰る）

記録の詳細

個別行動評価尺度ツール（記録用紙）

シャツを入れる（後）支援要求あり
記録

行動	評価	10月 11月 日付																			
		26日	27日	30日	7日	8日	9日	10日	13日	14日	15日	16日	17日	日	日	日	日	日	日	日	
着替え時に、その場で立ち尽くす。	16分以上	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
	12-15分	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
	6-11分	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	3-5分	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	0-2分	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
自発的に着替えを行う。	0-3点	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
	4-6点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
	7-10点	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	11-16点	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	17-24点	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

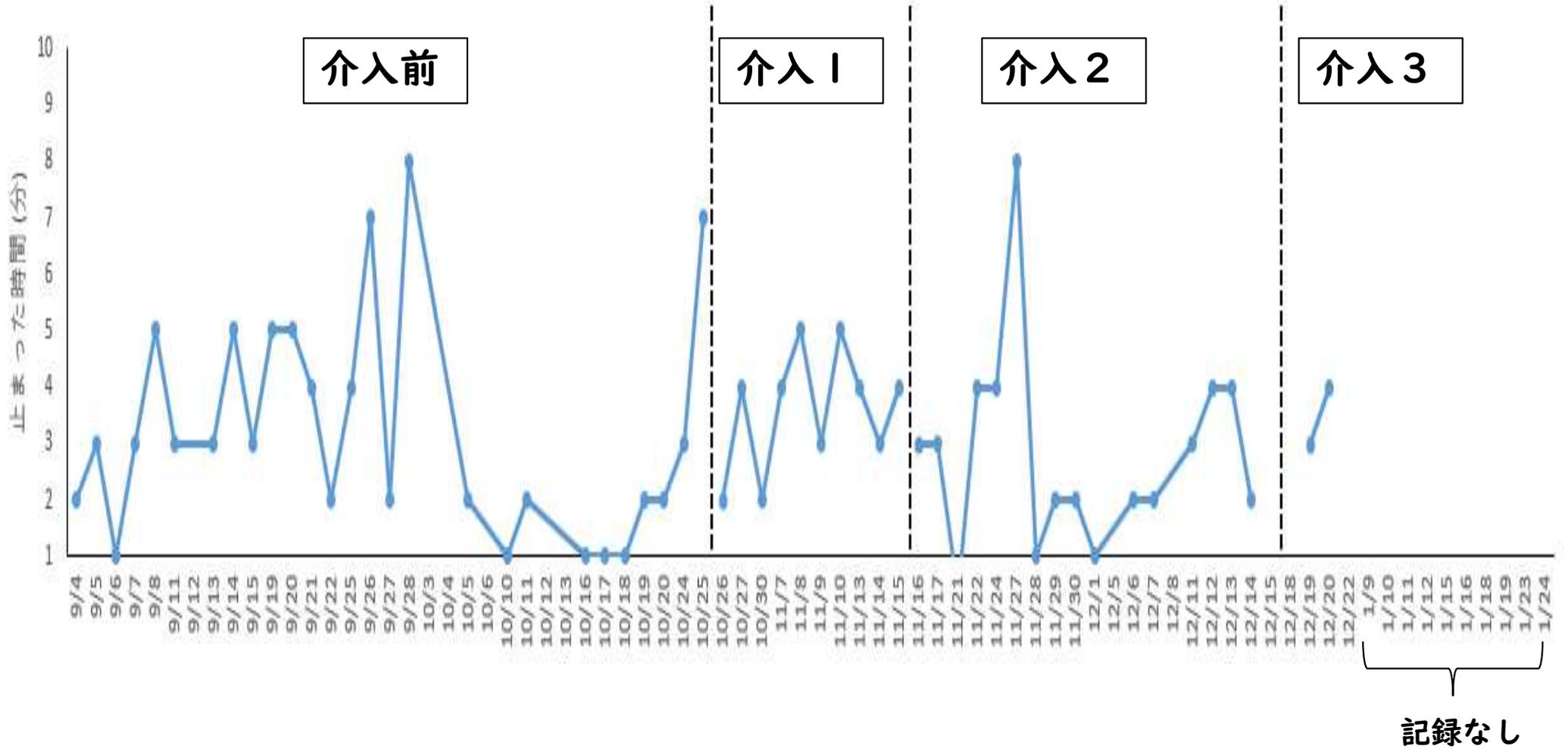
10月26日 開始

- ・スケジュールカード提示場所変更
- ・スケジュールカードを箱に入れた後、「OK、佐川さん」と称賛
- ・スケジュールに靴カードを追加

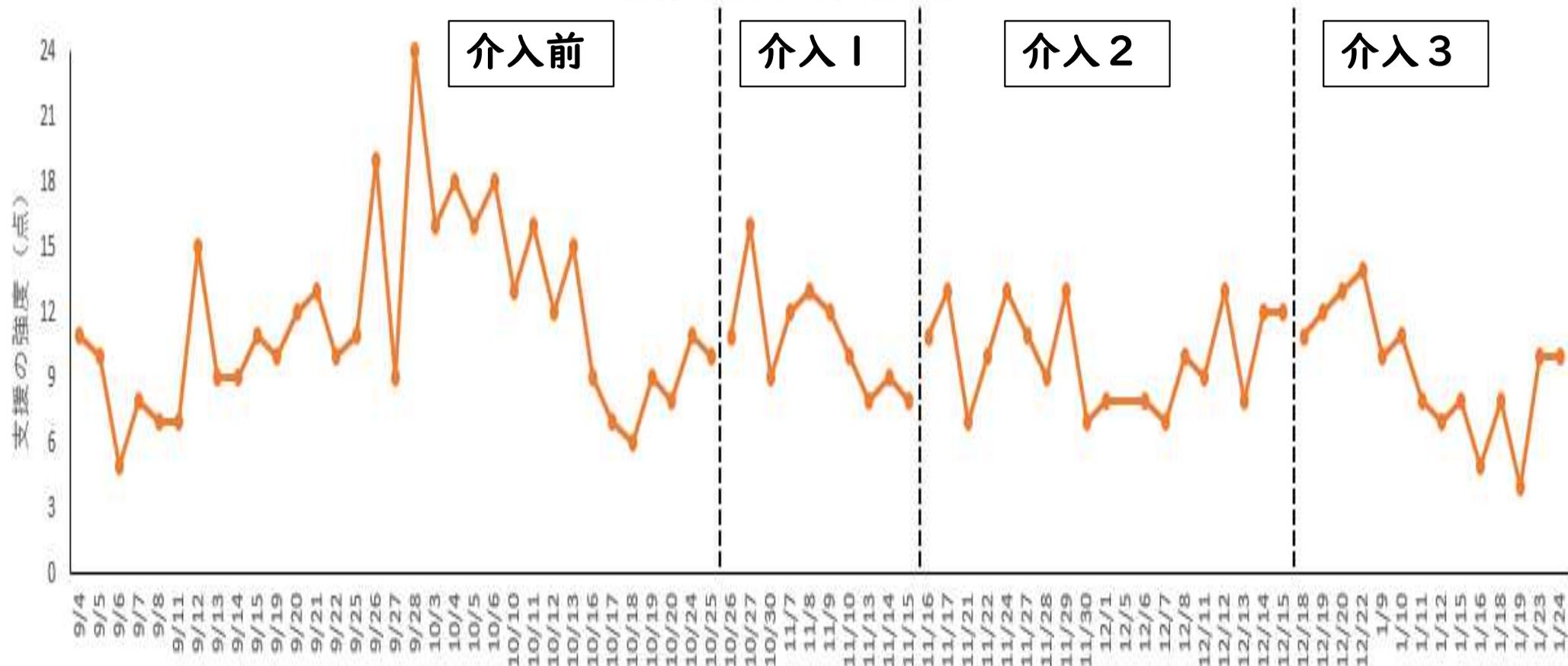
11月16日 開始

- ・靴を脱いだ後、スケジュールカードを指さす

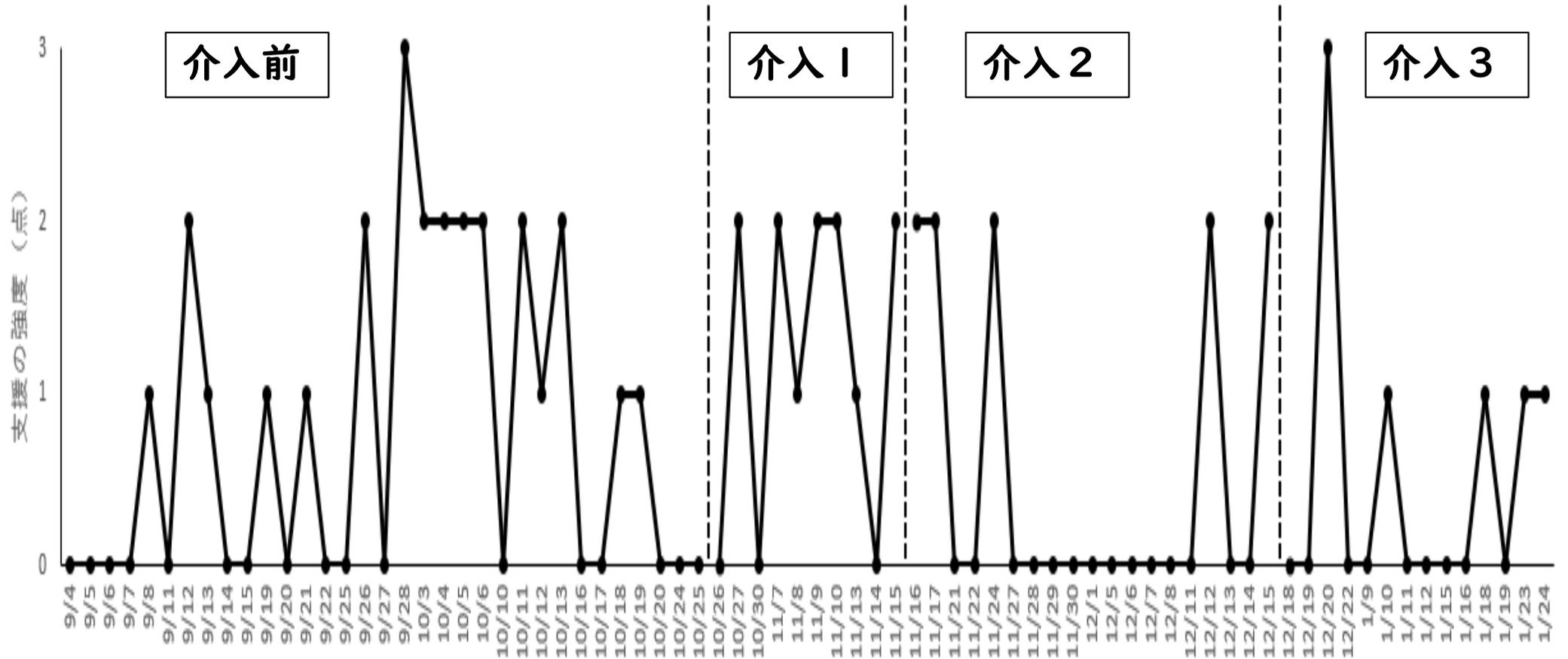
着替え時にその場で立ち尽くした総時間



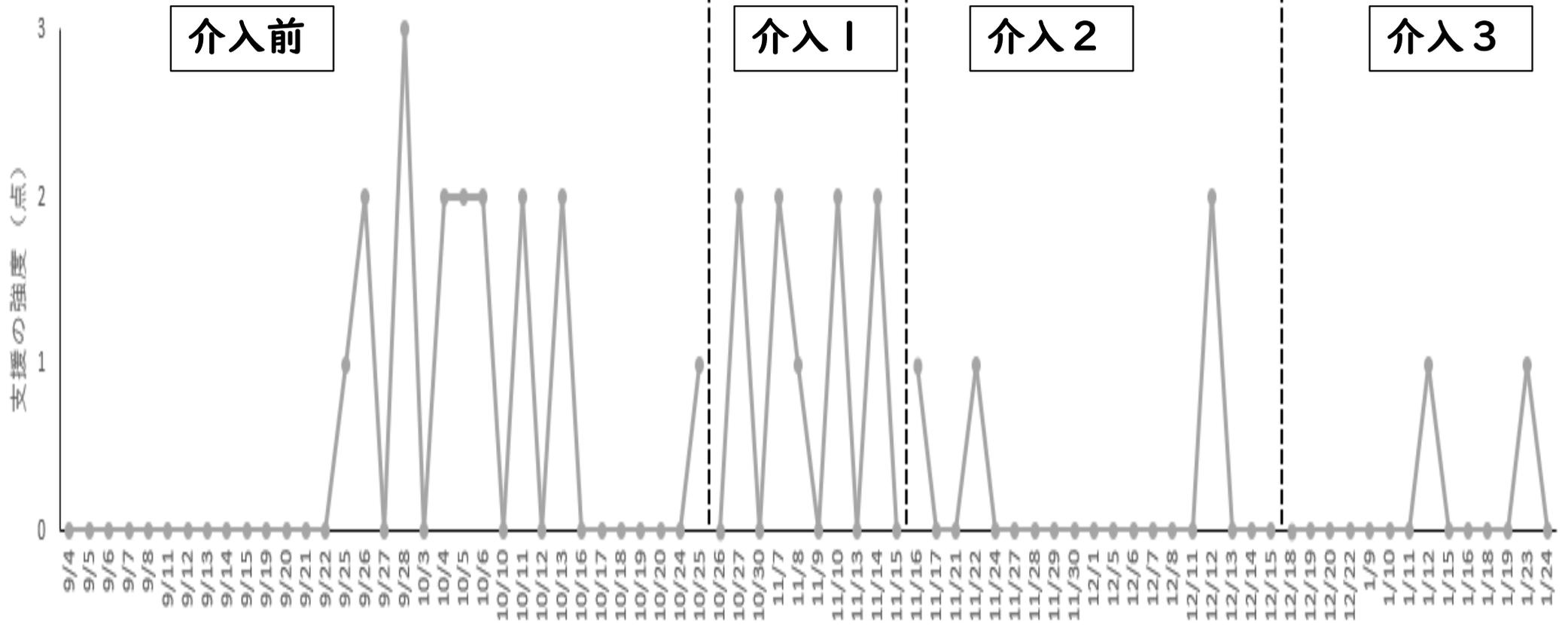
自発的に着替えを行う (8工程)



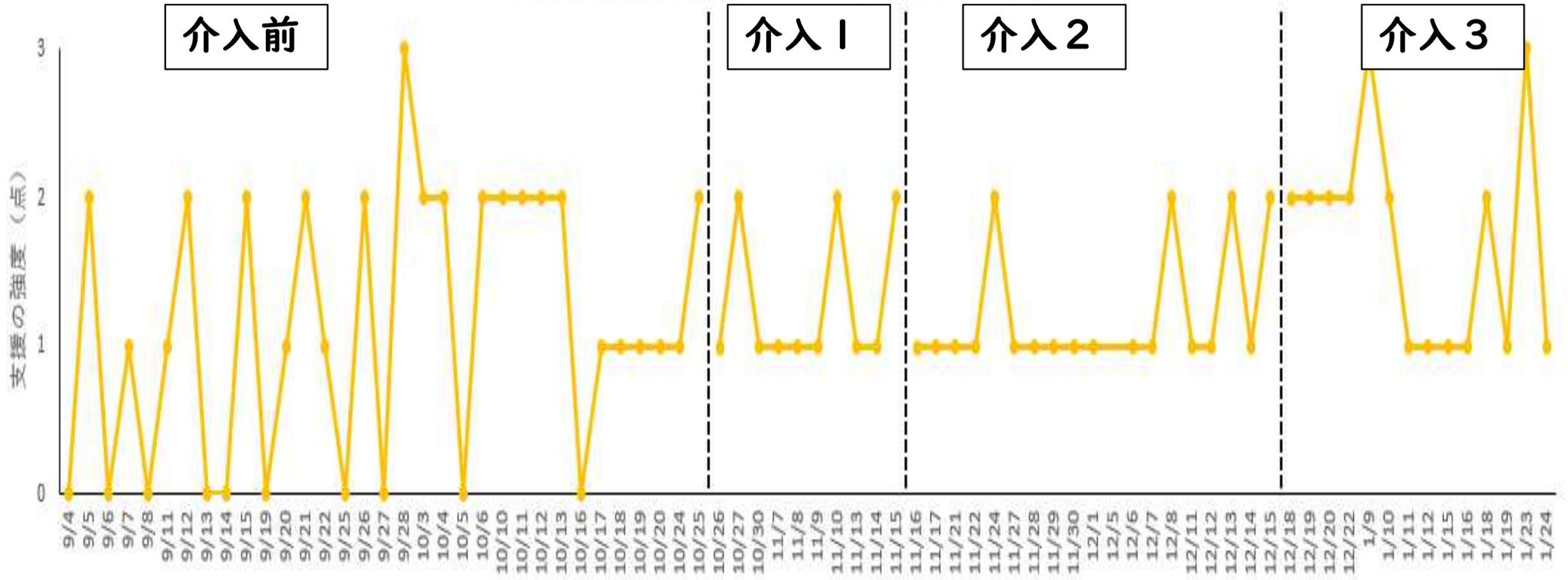
自発的に着替えを行う (工程# 1: 制服を脱ぐ・服を脱ぐ)



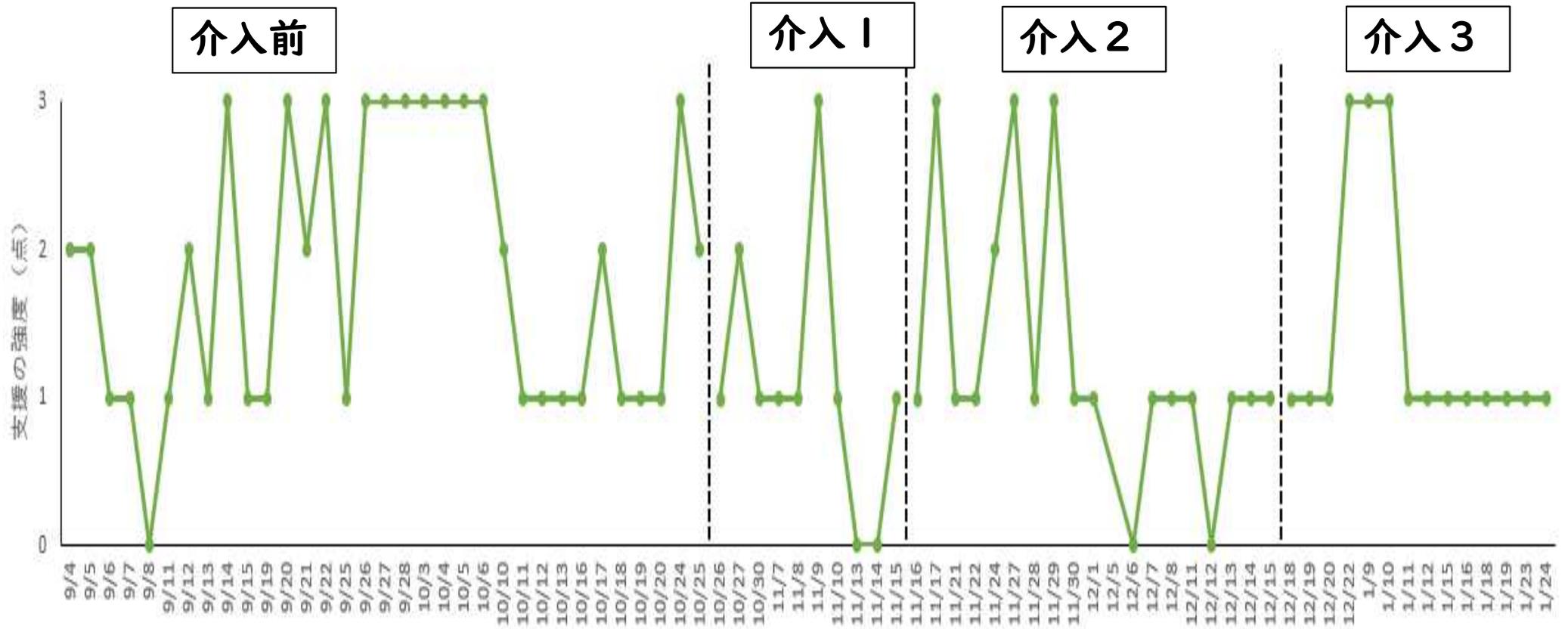
自発的に着替えを行う (工程# 2: スカートを脱ぐ)



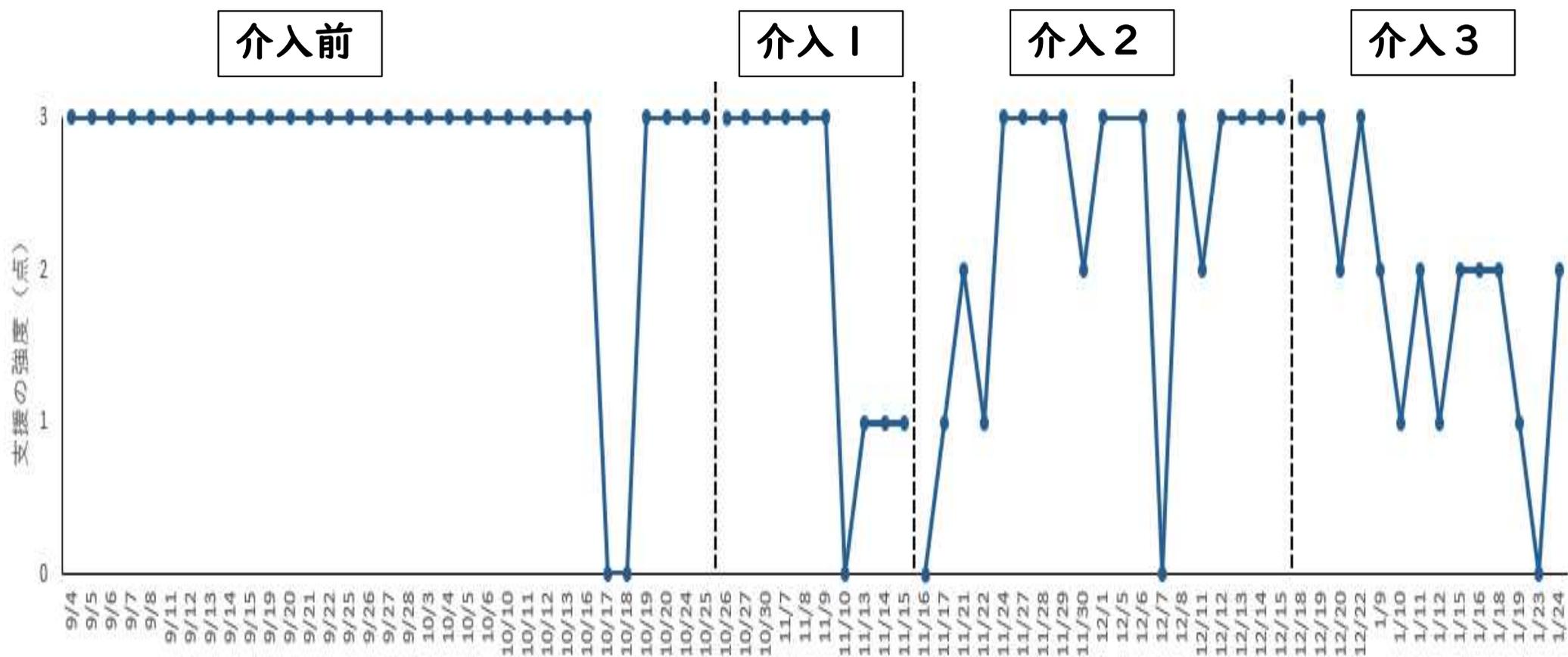
自発的に着替えを行う（工程#3：スポンをはく）

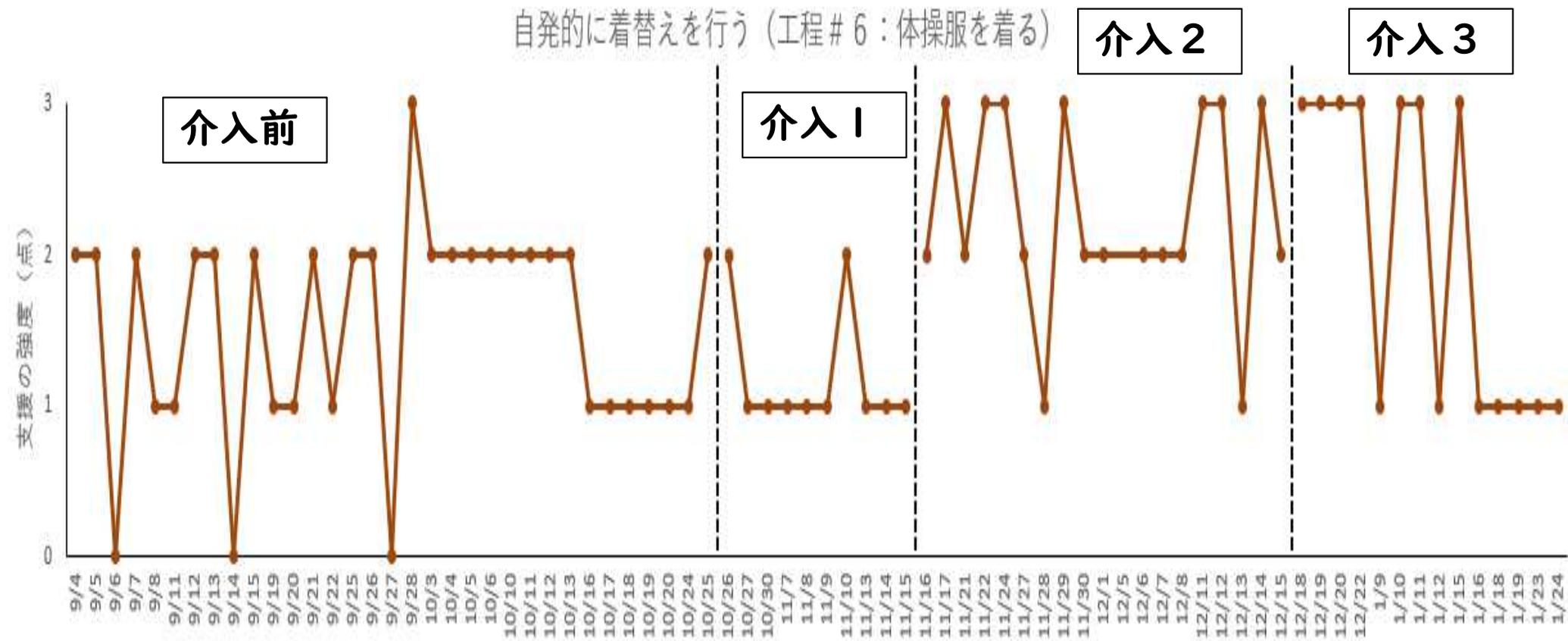


自発的に着替えを行う(工程#4:シャツを入れる(前))

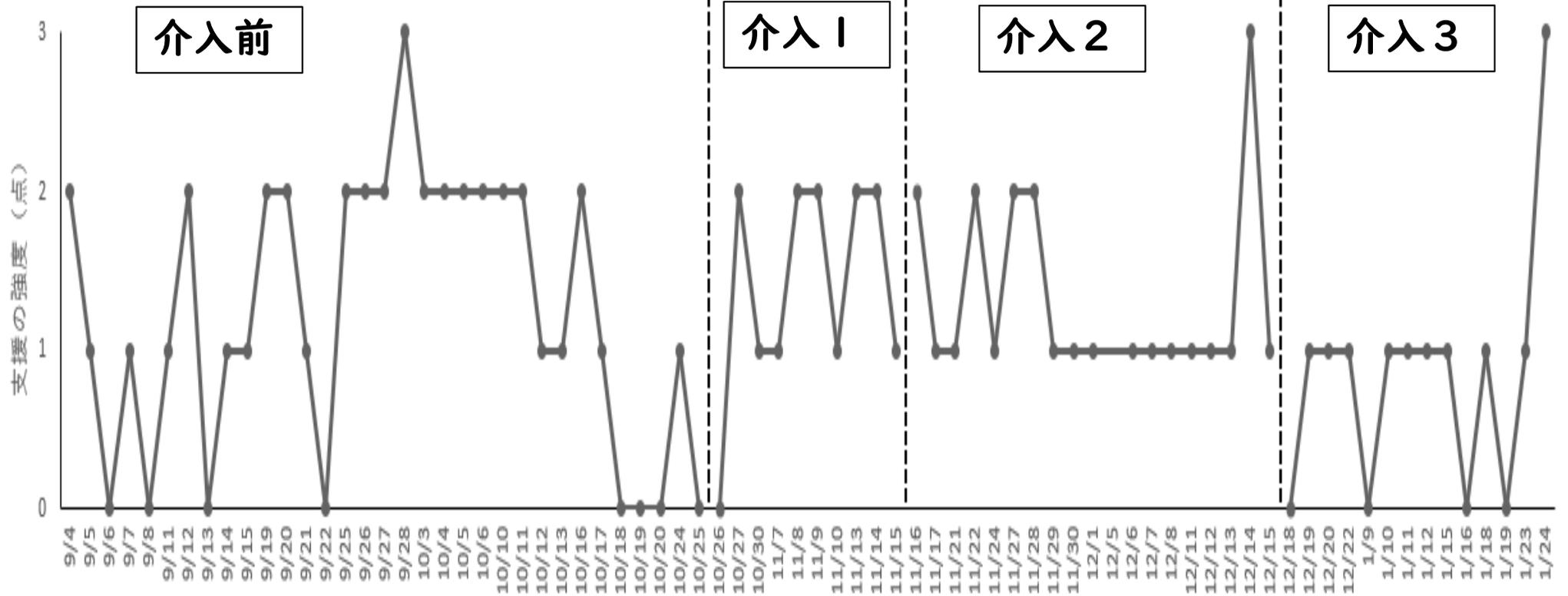


自発的に着替えを行う(工程#5:シャツを入れる(後))支援要求

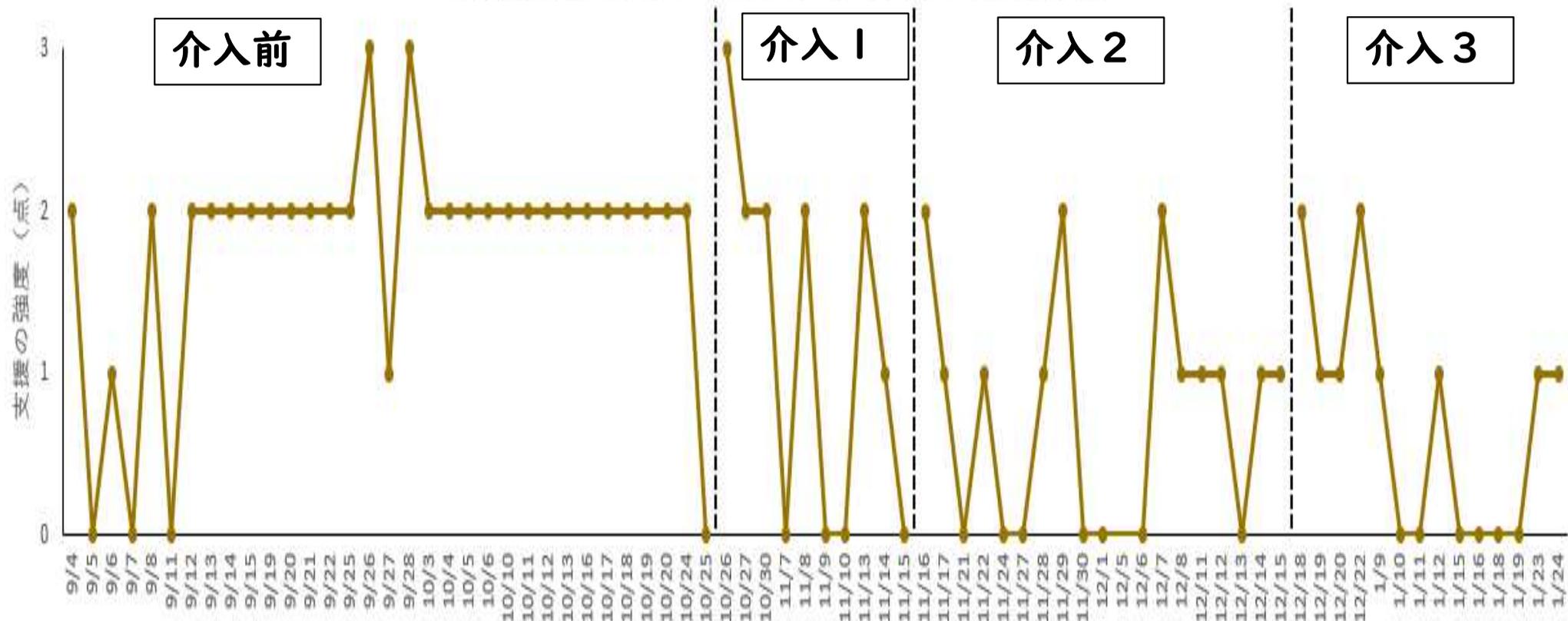




自発的に着替えを行う（工程# 7：脱いだ服をかごに入れる）



自発的に着替えを行う（工程# 8：かごを持って教室に帰る）



指導の成果

- 指導は継続中。
- 指導初期は更衣室に入った後、入り口の方に体を向ける等、スケジュールカードに目を向けることが少なかった。指さしや言葉かけが必要な時もあるが、徐々に周囲を見渡すことや立ち尽くすことが減り、スケジュールカードを確認しながら着替えを進めることが増えてきた。

教員の変容

- 実践前と比べ、対象生徒を称賛する場面が増えた。
- 担任間や保護者と情報共有を行う機会が増え、対象生徒の実態把握に努めることができた。
- 対象生徒が自発的に活動できるよう、構造化について考えることができた。

ここが成功のポイント

- 実践前は更衣室に入ってからその場で立ち尽くしたり、スケジュールカードに目を向けたりする機会が少なかった。しかし、スケジュールカードの提示場所を変更したことで、カードに注目しながら着替えを行う場面が増えてきた。
- スケジュールカード（着替えの工程）を細分化したことで、自発的に活動できる場面が少しずつ増えてきた。

ここが成功のポイント

- 繰り返し実践を進めることで「制服を脱ぐ」、「スカートを脱ぐ」という手順については、教員の指さしや言葉かけがなくても、スケジュールカードを見て自発的に行うことができるようになった。
- 着替えが終了した後、教室に帰る際についても、これまでは教員の指さしや言葉かけが必要であった。しかし、スケジュールカードに「靴を履く」という手順を追加したことで、自発的に教室へ帰るようになった。